

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 SCOSTEP小委員会

更新日 2011/12/22

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 太陽地球系物理学科学委員会

(欧文) Scientific Committee On Solar-Terrestrial Physics

(略称) SCOSTEP

日本学術会議加入年(西暦) 1982 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) SCOSTEP Steering Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Nat Gopalswamy		Franz-Josef Luebken	Marianna Shepherd
(国)	USA		Germany	Canada

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

会長・副会長(任期4年)は、4年毎にIUGGに合わせて開催されるSCOSTEPのGeneral Council Meetingにおける投票で選出される。現会長・副会長は2011年7月のIUGG(メルボルン)にて選出された。理事は、最長8年の任期で任期満了時に順次関連国際学術組織から推薦される。

加入国・地域の数 29ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

米国、日本、カナダ、英、仏、独、ノルウェー、露、中国、オーストラリア

国際学術団体のホームページURL

<http://www.yorku.ca/scostep/>

国際学術団体の年間運営経費

約90,000米国ドル

日本の分担予定額[事務局で記入]

810千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2010	SCOSTEP 12th Quadrennial STP Symposium (STP-12)	ベルリン(ドイツ)	251名	16名	無
2008	International Symposium: Fifty Years after IGY - Modern Information Technologies and Earth and Solar Sciences -	日本(筑波)	165名	124名	有
2008	International Workshop on Solar Variability, Earth's Climate and the Space Environment	米国(モンタナ州)	85名	4名	無
2007	International CAWSES Symposium	日本(京都)	376名	222名	無
2006	SCOSTEP 11th Quadrennial STP Symposium (STP-11)	ブラジル(リオデジャネイロ)	135名	約10名	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	SCOSTEP Breaul meeting	グリーンベルト(米国)	7	中村卓司 津田敏隆	0
2011	SCOSTEP Breau/General Council meeting	メルボルン(オーストラ リア)	15	中村卓司 塩川和夫	0
2010	SCOSTEP Breau meeting	ベルリン(ドイツ)	15	柴田一成 塩川和夫	0
2009	SCOSTEP General Council Meeting	ショブロン(ハンガ リー)	15	廣岡俊彦	0
2009	CAWSES-II Kickoff and planning meeting and SCOSTEP Breau Meeting	米国ボルダー (HAO/NCAR)	7	無し(塩川和夫が CAWSES-IIのTask Group 4のCo- leaderとして参加)	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

定期刊行物：STP Newsletter (年1回) (2003年以前)
CAWSES TG4 Newsletter (年4回) (2010年以降)
不定期刊行物：Comics Books (まんがによる太陽地球系科学の解説シリーズ)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
2009-2013年 CAWSES-II (Climate and Weather of the Sun-Earth system) 2004-2008年 CAWSES (Climate and Weather of the Sun-Earth system) を実施。
国際機関等への提言等
・英国の科学関係予算の削減に際し、SCOSTEP会長より英国のScience and Technology Facilities Council (SPFC)へ、太陽地球系科学の重要性を指摘して継続的な予算支援を依頼する手紙を送付(2008年5月)。
国際事業等への参加・実施等
2009-2013年 CAWSES-II (Climate and Weather of the Sun-Earth system) 2004-2008年 CAWSES (Climate and Weather of the Sun-Earth system) を実施。
全世界的/地域的研究課題への取組み
2009-2013年 CAWSES-II (Climate and Weather of the Sun-Earth system) 2004-2008年 CAWSES (Climate and Weather of the Sun-Earth system) の中で、太陽地球系科学に関連する全世界的な観測キャンペーンを実施。
発展途上国への対応
CAWSESおよびCAWSES-IIの中で、Capacity Buildingを重要な柱の一つとして位置づけ、対応している。アフリカやアジアなどの発展途上国における国際スクールの開催、まんがによる解説書シリーズの発行と発展途上国言語への翻訳の援助などを行っている。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

太陽活動が地球周辺の環境に与える短期的影響(宇宙天気)と、地球の大気や気候に与える長期的な影響の定量的な研究が重要な課題となっている。特に2009-2013年のCAWSES-II期間は太陽活動の極大期に相当し、太陽擾乱の地球への影響が注目されている。

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
理事	中村卓司	2011	2015
理事	藤井良一	2002	2010
理事	津田敏隆	1999	2007
副会長	大家寛	1994	1999

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 SCOSTEP小委員会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

なし

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
地球電磁気・地球惑星圏学会	約700名	http://www.sgepss.org/sgepss/
地球惑星科学連合	約5000名	http://www.jpgu.org/
日本気象学会	約4000名	http://www.soc.nii.ac.jp/msj/
日本天文学会	約3000名	http://www.asj.or.jp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

SCOSTEP小委員会
地球惑星科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
荻野龍樹		中村卓司	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
0	2	申請中

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

太陽地球系物理学(STP: Solar-Terrestrial Physics)に関係する国内研究機関・大学等の研究者と情報交換を深め、STP研究の総合的な振興を図る。同時に、国際SCOSTEPの活動に対応し、関連研究者の有機的組織化をはかって我が国の国際共同研究活動を促進する。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2011/8/29	SCOSTEP小委員会を開催 ・今期(第21期)のまとめと、次期委員の候補者の議論を行った。 ・2013年に日本に招致するCAWSES-II国際シンポジウムの議論を行った。 ・CAWSES-II及びその2014年以降の後継プログラムの策定と推進に関して、日本がどのような国際リーダーシップを発揮していくかの議論を行った。
2011/05/25-26	・地球惑星科学連合大会においてCAWSES-II/ISWI国際セッションを2日間にわたって開催。22件の口頭講演と11件のポスター講演があった。 ・5月25日にSCOSTEP小委員会を開催し、極地研の中村卓司氏がSCOSTEPのBureauメンバーになったことにより、同氏をSCOSTEP小委員会の委員に追加することを決定した。また、2013年にCAWSES-II国際シンポジウムを日本(名古屋)に招致することを決定した。
2010/11/3	・地球電磁気・地球惑星圏学会の第128回講演会(沖縄県市町村自治会館)において、「宇宙天気・宇宙気候～観測、シミュレーション、その融合～」のセッションを開催し、SCOSTEPが推進するCAWSES-IIプログラムと、STPP小委員会が推進するISWI国際プログラム及び、国内の大学間連携プロジェクトであるIUGONETの間の連携促進とこれまでの成果報告を行った。
2010/6/16-17	・京都大学宇治キャンパスにおいて、名古屋大学太陽地球環境研究所・京大大学生存圏研究所の主催により、CAWSES-IIキックオフシンポジウムを2日間にわたって開催。44件の口頭講演と33件のポスター講演があった。 ・初日の夕方にSCOSTEP小委員会を開催し、CAWSES-IIに関連した日本の活動を国際SCOSTEP委員会に伝達するために、CAWSES-IIキックオフシンポジウムの英文プロシーディングの作成などを決定した。 ・国際SCOSTEP委員会の日本代表(adherent)を津田敏隆委員から荻野龍樹委員に変更することを決定し、国際SCOSTEP委員会に連絡した。
2010/5/25-26	・地球惑星科学連合大会においてCAWSES-II/ISWI国際セッションを2日間にわたって開催。30件の口頭講演と7件のポスター講演があった。 ・初日にSCOSTEP小委員会を開催し、日本のCAWSES-IIの推進体制を議論した。
2009/10/2	SCOSTEP小委員会を開催 ・委員長を津田敏隆委員から荻野龍樹委員に交代することを決定。 ・幹事に平原聖文委員を追加することを決定。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・ ホームページや電子メールによってSCOSTEPの活動を関連の研究者に周知。
- ・ SCOSTEPのアウトリーチの主体であるまんがによる太陽地球系科学の解説シリーズは、名古屋大学太陽地球環境研究所が主体となって日本語で製作し、さらにそれを英訳している。
- ・ 2010年5月・2011年5月に開催される地球惑星科学連合大会で、CAWSES-IIに関する特別セッションを開催。また、2010年6月にはCAWSES-IIキックオフシンポジウムを京都で開催。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

SCOSTEPはCOSPAR, IAGA, IAMAS, IAU, IUPAP, IUGG, SCAR, URSIと協力して太陽地球系科学の推進を行う団体で、その理事会はこれらの団体からの代表によって構成されている。これに対応し、国内でも20期までは、宇宙空間、地球電磁気、大気水圏、天文、極地、電波、各研連から推薦された委員と関連学会からの委員で構成されていた。22期以降もこの役割を継承し、これらの学協会との連携をはかっている。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

2011年9月末に、SCOSTEPの主導するCAWSES-IIの国際シンポジウムを日本で開催することが国際理事会で決定され、これに対応するためにコンビーナ、Advisory Board、SOC、LOCを組織し、第1回サーキュラーを作成中である。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

国際SCOSTEPが主導するCAWSES-IIプログラム(2009-2013)の活動が行われており、これに対応する国内CAWSES-IIのホームページがSCOSTEP小委員会により整備された。また、2010年5月・6月、2011年5月には地球惑星科学連合大会CAWSES-II/ISWI国際セッションやCAWSES-IIキックオフシンポジウムも開催、2012年5月にもCAWSES-IIIに関する国際セッションを企画した。さらに、2013年には国際CAWSES-IIシンポジウムを我が国で開催予定であり、CAWSES-II成功に向けて鋭意努力している。また、世界資料センター(WDC)活動も国際的な再編が行われつつあり、この国内対応も行っていく。